

まなびくらす news letter vol.1

～多様な学びを地域と学校とともにつくりたい～

NPOはたらくらす 多様な学び共創チーム

2019年9月末日発行

NPOはたらくらすは日吉地区を拠点に「はたらく」「暮らす」「つどいまなぶ（クラス）」にあふれた街づくりを行うNPOです。街の住人がみんなで街に関わり、それぞれの思い描く学びやくらしのあるまちを自分たちでつくることを目指しています。

このメンバーの中でも特に公教育や、先生方の健康や暮らし、自由で多様な子どもたちの育ちや学び、市民による街づくりについてより興味のあるメンバーが主体となって、今、子どもたちが通う学校で非常に大きなテーマになっている「先生方の長時間勤務」「学びの見直し」について、保護者として、市民として、何かできることはないだろうか？と話題にすることが今年に入ってから増えました。

もしかしたら保護者が学校に前向きな声を上げ、手足を動かすことで、子どもたちの学びと自らの暮らしに葛藤し困っている学校や先生方の変化を応援することはできないだろうか。先生方が元気になって下さることで、子どもたちはきっとより豊かに生きることができる。

そうした仮説をもって調べていくと、先生方の働き方改革については、すでに川崎市教育改革推進会議というところで議論が進んでいることを知りました。そこで、まずは自分たちが住む地域で今どのような議論がされているのかを勉強するため、「平成30年度 第3回川崎市教育改革推進会議（摘録）」を読み、感想や考えを互いにシェアしようと【川崎市の取り組みを知るために教育委員会の議事録をモクモク&ワイワイ読もうの会】を実施しました。今回はその概要を報告します！

【多様な学びを地域と学校とともにつくりたい：川崎市の取り組みを知るために教育委員会の議事録をモクモク&ワイワイ読もうの会】

1) 要点

2019年9月17日に新川崎にあるコトニアガーデン新川崎内のタリーズコーヒーで議事録を読む会を実施しました。

実はこの企画は夏休み前に実施予定だったものの、台風の到来で延期となっていた企画でした。

facebookでの呼びかけだけであったにもかかわらず、たくさんの方から関心をお寄せいただき、当日は6名もの方に足をお運びいただきました。

正直、すでに実施された会議の議事録を読む会などというシブい企画に関心をお寄せくださる方がいることも、ましてや実際に足をお運びくださって一緒に読もうと集まってくださったことも、全てが我々企画者の想定をはるかに上回っておりました。

集まってくださった方は民間にお勤めの方から主婦の方、地域の方もいれば、地域外の方もいらっしゃいました。さらには年齢も性別もとても幅の広い方々でした。

みなさま、会の趣旨に大変深い理解を示して下さっており、おかげさまで前向きな次のアクションについて考えることができました。

2) 当日の様子



3) 実施概要

日時：2019年9月17日（火）10：00～11：30（90分）

場所：タリーズコーヒー コトニアガーデン新川崎店

<https://tabelog.com/kanagawa/A1405/A140503/14070979/>

参加費：資料代として400円、そのほかカフェの飲み物代をそれぞれ負担。

議題：

- ・参加者自己紹介
- ・会の趣旨、読む資料についての説明
- ・それぞれペンや蛍光ペンとかを持ってモクモクと読む時間
- ・読んだ感想をワイワイと話す時間
- ・私たちにできることのアイディアを考える
- ・次回の相談や感想

参照議事録：

平成 31 年 3 月 19 日開催平成 30 年度 第 3 回川崎市教育改革推進会議（摘録）

<http://www.city.kawasaki.jp/880/cmsfiles/contents/0000032/32024/30suisinkaigitekiroku3.pdf>

概要：

保護者や市民の一人として私たちが地域とどう連携できるのか、学校と連携できるのか、または関わられるのかについて、アイデアを精査し、アクションプランを見出す場として設定しました。

まず、はじめの20～30分を使い、それぞれもくもくと議事録を読み進めました。

その後、感じたこと、気になったこと、感想や考えをワイワイと出し合い、付箋に貼り付けて視覚化していきます。

ディスカッションでは、教育現場の抱える問題点、解決につながった事例、保護者の存在、地域の役割、先生が本来担うべき役割など、話題は多岐にわたりました。

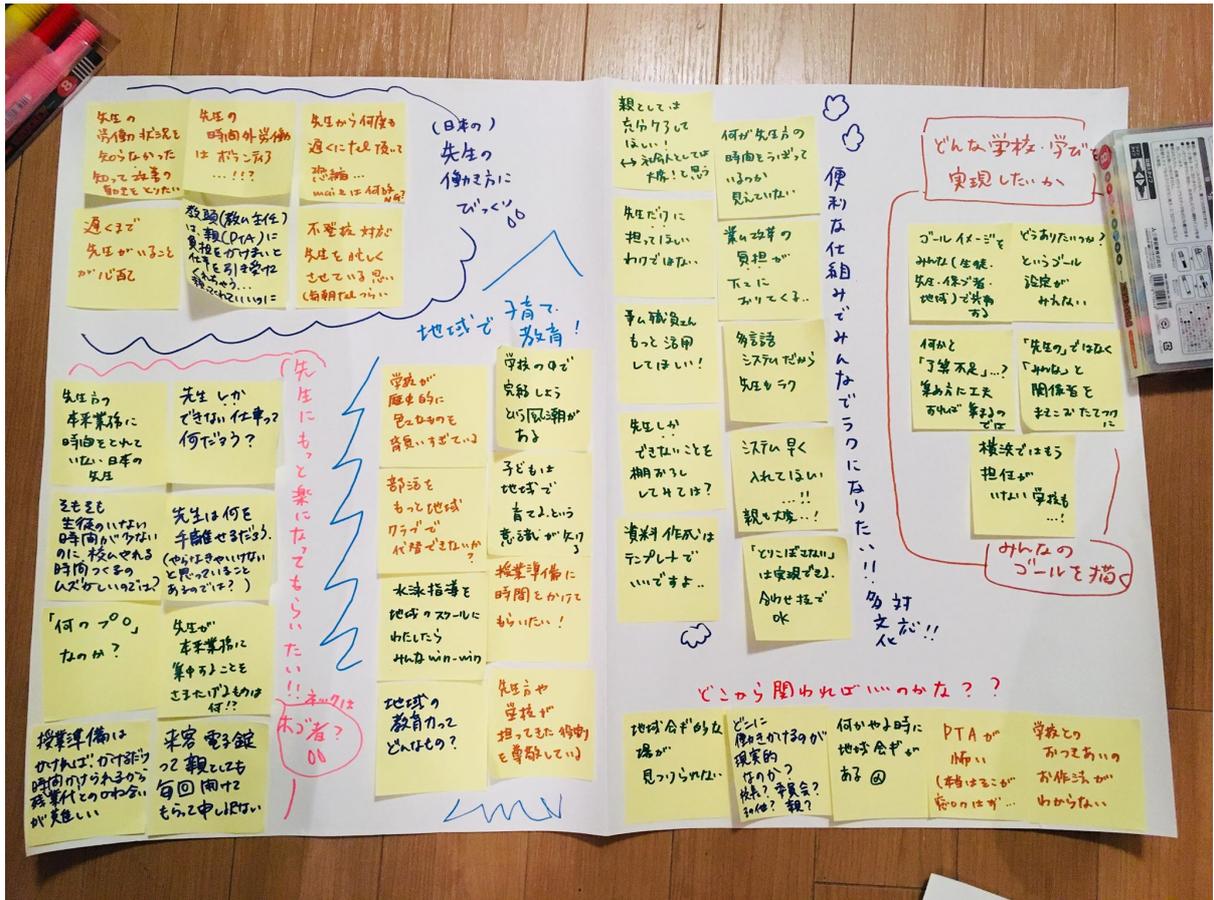
さらにはこういった声をどこへ届けるのがか効果的なのかといった次のアクションにつながる話もなされました。

4) 参加者からの意見

① 参加動機

- ・小学生と中学生の保護者として興味があった。（40代女性）
- ・夫が教員で疲労困憊、教員の働き方に課題意識がある。子どもたちは小学生と幼稚園児。（30代女性）
- ・街歩きのお友達に誘われてきた。去年まで海外赴任で海外の小学校に通学、帰国してから日本の先生の働き方にショックを受けた。（40代女性）
- ・多文化共生のボランティア活動をしていて、多様な子どもたちの学びに関心がある。（60代男性）
- ・子育てが終わり孫育てをしている。子どもたちの未来のために今の教育現場の課題をみんなでなんとかしたいと思っている。（50代女性）

② 議事録を読んで



■日本の先生の働き方にびっくり！

- ・先生が働きすぎという労働状況を知らなかった。知って改善のための動きをとりたい。
- ・先生の時間外労働はボランティア（特に手当などはつかない）だということに驚いた。
- ・いつも遅くまで先生が学校にいらっしやるのが心配。
- ・教頭先生や教務主任が親（PTA）に負担をかけまいと仕事を引き受けてくれていると感じる。もっと頼って下ってもいい。
- ・（保護者の立場で）実際に先生から何度も電話をもらって、折り返せないことを申し訳なく思っている、メールで連絡ができたらいのに…
- ・子が不登校ぎみ。不登校対応で先生を忙しくさせていると思うと欠席連絡も申し訳なさでいっぱい、ますます不登校に気持ちがふさぐ

■先生にもっと楽になってもらいたい！（ネックは保護者?!）

- ・日本の先生は授業準備の時間を確保できていないという問題に危機感をもった
- ・先生「しか」できない仕事って何だろう
- ・先生が本来業務に集中することを妨げるものはなに？（保護者?!）
- ・先生は何を手放せるだろう（やらなきゃいけないと思ってくださっていることがあるのでは）
- ・そもそも生徒のいない時間が少ないのに、校務までやる時間をつくるのは難しいのでは
- ・授業準備は時間をかけられるだけかけられるところもあり、兼ね合いが難しいだろう
- ・学校に行く時に先生に毎回電子錠をあけてもらうのが親として申し訳ない

■地域ももっと子育て・教育しなければ！

- ・学校が歴史的に様々な役目を背負いすぎているのかも
- ・学校の中で完結しようという風潮があると感じたことがある
- ・部活をもっと地域で代替できないか？（先生にとって部活が負担らしい）
- ・水泳指導を地域のスイミングスクールに渡しているケースがあるみたい
- ・子どもは学校で育ててもらえるもの？地域で育てるもの？
- ・先生方や学校が担ってきた役割を尊敬している・けれどここまでの議論を鑑みるに、今後は授業準備に時間をかけてもらいたい
- ・「地域の教育力」ってどんなもの？

■便利な仕組みでみんなでラクになりたい！多文化対応も！！

- ・正直、親としては「十分にケアしてほしい」という気持ちもやはりある
- ・でも社会人としては先生の働き方はあまりにも大変と思う
- ・先生「だけ」に担ってほしいわけではない
- ・学校の事務職員さんをもっと活用してほしいと思った
- ・資料作成などはオリジナルでなくテンプレートで構わない
- ・何が先生方の時間を奪っているのかわからない
- ・先生「しか」できないことを棚卸してみては？
- ・そういう業務改革の負担が下々に降りてきているので先生方は疲労困憊
- ・仕組みをうまく使えたら多言語システムなどで先生も楽できるはず
- ・オリジナルな対応の良さもあるが限度があり、今の外国ルーツの子どもたちの課題などはシステムを使うことのメリットが大きいはず
- ・連絡や情報共有の便利なシステムが入れられるなら親も楽になるはず…！早くほしい
- ・そういう最新の仕組みは使えない親もいる？
- ・使えない親には、個別に対応するという方法で実現できるはず

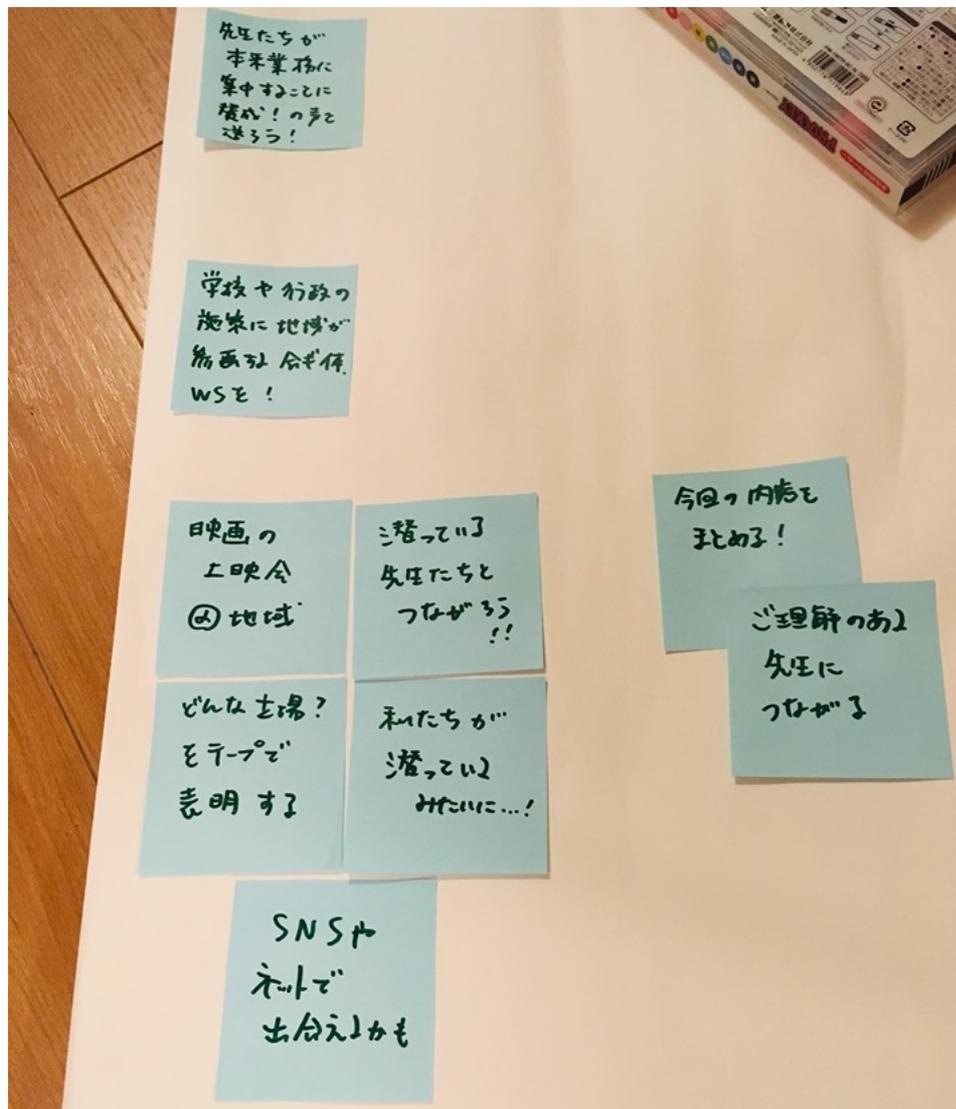
■どんな学校・学びを実現したいか、みんなのゴールを描く

- ・ゴールイメージをみんな（生徒・先生・保護者・地域）で共有したい
- ・どうありたいのか？どんな学校を実現したいか？というゴール設定が見えない
- ・何かと「予算不足」となってしまうことが残念。クラウドファンディングなど、みんなの力を合わせて資源を集めることも実現できるのでは
- ・「先生」だけではなく「みんな」が当事者になる立てつけがいいのでは
- ・横浜ではもう担任がいらない学校もあるとか
- ・地域の学びや子どもをまもるために、一刻を争う私たちの問題だという認識を合わせたい

■どこから関わればいいのか？

- ・いろいろ思うことはあるがどこに伝えたらいいのかわからない
- ・PTAが怖い（本当はそこが窓口なはず）
- ・学校に伝えてもいいのかもしれないが、学校とのお付き合いのお作法がわからない
- ・地域会議というものがあるときいたが、そこは保護者が突然行くような場ではなさそう
- ・どこに働きかけるのが現実的なのか？校長？委員会？親？そのほか？

③ 今後のアクションを考える



■先生方が働きやすくなるためのアクションをとろう！

- ・先生方が本来業務に集中することに賛成！の声を送ろう
(でもどこから？
(迷惑ではない？
- ・学校や行政の施策に地域が意見を伝える場をつくりたい
(独自に議論の場は作れるかな？
- ・学校についての映画の上映と対話をセットにした対話会を横浜ではやっているのを川崎にも持ってきてたい
(先生、保護者、などそれぞれに色分けしたテープを張り、様々な立場の方が参加・議論していた！
(そういう場を川崎でもつくれるのでは
(まずは様々なひとがフラットに話せる対話の場をつくりたい
(こういった活動に賛同して下さる先生もきっとどこかの学校にいらっしゃるはず

- ・同じ気持ちをもつたがたと協働するためにも、今日の活動を発信することが大事
- ・まずは今日の活動についてまとめ、発信をしよう

5) 所感

このような「議事録を読んでディスカッションする」という風変わりな企画に人が集まってくれたことに驚くとともに、普段は出会うことがないけれど同じ方向を向いて手を取り合える人がこんな近くに、こんなにたくさんいたのだという希望を見出せた、とても素晴らしい時間となった。

さまざまなご意見ご感想をどこに手渡していくのか、どこに繋がっていくのか、どこと手を取り合えるのか……いやそもそも「どこに」ではなく「だれに」なのかもしれない……など考えたいことはたくさんあるが、改めて私たちの目指すゴール設定を言葉にして、明確に行きたい。そして、時間の開かないうちに第2回を実施したい。

6) わたしたちについて

親として子どもたちと関わってきて、子どもたちの個性と、その個性に応じた認知の仕方や、理解の仕方、暮らし方や生き方があることをより強く感じるようになってきました。

子どもは親とだけではなく、学校という場で多くの時間を過ごしています。

そんな学校を支える教職員の労働環境が過酷な状況であることは近年徐々に知られるところとなってきました。

学校からは、市長のお名前でも、先生の働き方が変わってゆくための理解をして欲しいというお手紙をいただきました。私たちは、先生方がご自分を大切にされ、そしてよりそれぞれらしいあり方で子どもたちに向き合ってくださいるための変化を起こしてゆかれることを、歓迎しています。

先生方の疲弊は子どもたちの学びの環境に影響を与えます。

子どもたちのため、先生方のため、地域のため、社会のため、私たちはNPOという立場から共に手を取り合える仲間を探し、出来ることを考え、行動していきます。

メンバー

NPO法人はたらくらす (WEB : <http://hatarakurasu.jimdo.com/>)

多様な学び共創チーム (WEB : <http://manabikurasu.mystrikingly.com/>)

担当 高安、平石



←Facebook 多様な学び共創チームグループページに繋がります！